



同窓会だより

同窓会だより

副会長 野内 昭宏

新潟大学歯学部は昭和40年4月に設置されました。昭和46年3月に歯学科1期生が卒業しました。それから程なくして、歯学部同窓会が創立されました。そして50余年を経て、この春には歯学科52期生と口腔生命福祉学科15期生が卒業します。彼ら・彼女らを含めると、これまでに約3,000名の卒業生（同窓生）が輩出されています。

同窓生は時代にふさわしい活躍が求められている中、活躍の場を日本のみならず世界に求めている

方もいます。また、大学教授も延べ67名輩出されていて、各部署でのリーダーや、次世代への指導者たる役割が期待されています。

そんな中、11月には防衛医科大学校名誉教授の佐藤泰則先生（歯学科5期生）が、秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。当会からも祝意をお伝えしました。

歯学部同窓会も創立50周年を迎えます。2022年7月には記念事業を行う予定で、現在準備を進めています。ご興味のある方は、同窓会事務局までお問い合わせください。



叙勲のお祝いに佐藤先生に贈られたMade in NIIGATAのチタン製カップ





同窓会セミナーを受講して

歯学科21期生 小澤 賢一

今回の新潟大学歯学部同窓会学術セミナーは「歯科治療中の呼吸困難」ということで、通常の歯科診療下でほとんど経験した事のない僕にとっては興味深いテーマでした。

また瀬尾憲司教授は30年程前の学生時代に臨床実習の際にご指導頂いた記憶があり、大変懐かしい想いととも、またこのような形で講義を受けられる事をとても楽しみにしておりました。

セミナーでは呼吸困難の発生機序やその定義、種類などの分類と共に、いつの時点から呼吸異常があったのかを知る事が重要であるとのことでしたが、毎日の診療行為の中では麻酔や歯科処置中の異常には気を付けているつもりですが、歯科医院への到着時・チェアに座った時・治療中・治療後とステージ毎に分けて考えることが大事であると思いました。

また呼吸困難をきたす疾患として呼吸器疾患・循環器疾患・神経疾患・廃用症候群などがあり、心停止となる場合にも呼吸数に異常がみられる事からパルスオキシメーターの有用性があると説明がありました。パルスオキシメーターは新型コロナウイルスの際にハッピーハイポキシアで話題と

なっておりましたが、心停止の際にタイムラグがある事には驚きました。

そして咽頭落下やアレルギー・喘息発作・過換気の際の対応動画を拝見しましたが、動画での講義はとても解りやすいものでした。その中で自分は過換気の際は再呼吸を促せば直ぐに回復すると思っておりましたが、時間がかかるということを知り過呼吸に対する認識が変わりました。

さらにケーススタディでは、刻々変化するモニターを見ながらの原因解析や対応方法について実習さながらの臨場感溢れるもので、実際に事例が起きた時とにかく対応する事と呼吸数の把握が重要であると痛感しました。

歯科治療の際の呼吸困難に対する認識がアナフィラキシーや迷走神経反射にフォーカスしていた自分にとっては今回のセミナーが知識の幅を広げると共に、歯科治療中のみならず患者さんが歯科医院に到着してから帰宅する迄、患者さんのモニタリング・全身状態の観察把握をする「歯科全身管理」が改めて重要であると再認識しました。

最後になりますが、コロナ禍の中でも学びの機会を提供して頂きました同窓会学術担当の先生方に感謝すると共に、このような状況下で日々診療にあたられている同窓会員の先生方のご活躍を祈念します。来年度は是非リアルで学術講演会に参加させて頂きたいと思います。

